



### TOKYO X-Association が欧州連合農業委員と交流会で意見交換

7年ぶりに新潟で行われるG7農業大臣会合のため来日した欧州連合農業委員のフィル・ホーガン氏(写真右)一行が会合前日の22日、TOKYO X-Association と交流会を行った。交流会は駐日欧州連合代表部が計画。欧州連合農業委員はアニマルウェルフェア、飼養管理の厳格さや遺伝的形質の優れているTOKYO Xを視察の対象として選択し、見学対象とした。

プロモーションはミートコンパニオンの講堂で行われ、TOKYO X-Associationの植村光一郎会長(同左)がTOKYO Xの四つの理念、飼養管理マニュアルや現在行っている第4次ブランド戦略に触れ、消費者の購買活動がいかに生産活性化につながるかを消費者交流会で説いていることを説明。アニマルウェルフェアについては日本で普及している「食育」を通して、食材は全て命でできており、それを大切に育て、その命に感謝し愛情を持って大切に育てる手法はアニマルウェルフェアと共通するもので消費者にも広く伝えられており、日本の消費者もそれを選ぶようになってきていると述べた。また、スーパーマーケットショーの食品展示会で生きた120kgの肉豚を展示したことに対しては、欧州では生産工程や家畜の安全性を誇示するために一般的に行われ、珍しくないことが説明されるなど、日本と欧州の習慣の違いが披露された。交流会は、ミートコンパニオン直営のDANRAN亭で行われ、欧州連合農業委員は植村氏が1本ロースから一枚一枚切り分けているのを見て、肉質の素晴らしさや脂肪融点の低さを確認しながらカメラに収めていた。そして炭火で焼いたTOKYO Xの焼き肉を口に、「価格が高くても消費者に支持される訳が納得できた」と語った。

植村会長は今回の交流会や討論を通して世界的な農業者の高齢化、農業の可能性としての人材強化やフードチェーン構築、農業に対する女性・若者の活躍推進、農村コミュニティの活性化や持続可能な農業生産管理について「答えは得られずとも、欧州と日本の現状を把握できたことで大きな成果として受け止められた」と語った。また、ホーガン氏は、「和牛やTOKYO Xの飛び抜けた品質やコンセプトに日本の農業の新しい躍動感を感じた」と述べた。

### 平成28年熊本地震による災害に係る激甚災害の指定―農水省

農水省は25日、平成28年熊本地震による災害を激甚災害として指定し、併せて当該災害に対し適用すべき措置等を指定するための政令が、閣議で決定されたと発表した。